

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月24日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22720103

研究課題名（和文） ヘミングウェイのカトリシズムと共産主義

研究課題名（英文） Hemingway's Views of Catholicism and Communism

研究代表者

高野 泰志（TAKANO YASUSHI）

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：50347192

研究成果の概要（和文）：

イタリアのミラノとドーフ・チロルにて現地調査を行い、スイスのローザンヌで開催された国際ヘミングウェイ学会にて研究発表を行った。また国内でも関連研究を2回にわたって学会発表を行い、その成果を『マーク・トウェイン 批評と研究』の投稿論文、ヘミングウェイ没後50周年記念論文集『アーネスト・ヘミングウェイ——21世紀から読む作家の地平』、および『ヘミングウェイ大事典』で発表した。

研究成果の概要（英文）：

I went to Milan and Dorf Tyrole in Italy, and researched into Hemingway's attitude toward Catholicism. I also attended the international conference held in Lausanne, Switzerland, and joined a panel on "Hemingway's works from Asian perspectives." I read papers at two conferences in Japan; published an article in the journal of Mark Twain Society of Japan; edited an essay collection commemorating 50 years since Hemingway's death, which include my own essay; and edited and wrote many articles for Hemingway Encyclopedia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：アメリカ文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：ヘミングウェイ、カトリシズム、共産主義

1. 研究開始当初の背景

これまで多くのヘミングウェイ研究者は、ヘミングウェイが政治的に無関心であると考え、その政治性に関してはほとんど研究してこなかった。しかし近年公開されつつある

KGB 極秘文書を調査したジョン・アール・ヘインズらは、ヘミングウェイが一九四〇年代から「アルゴ（"Argo"）」というコードネームを持つ KGB のスパイであったと主張する。明かされた KGB 側の文書によると、ヘ

ミングウェイが KGB に協力することを決意したのは、ソ連の共産主義への共感というイデオロギー上の理由からであるという。実際にヘミングウェイがスパイであったかどうかは今後の調査が待たれるが、少なくともソヴィエト連邦と何らかの関わりがあったことは間違いなさそうである。

これまでもケアリ・ネルソンやケネス・キナモンなど、一部の左翼研究者がヘミングウェイの共産主義との関わりについて触れてきたが、にもかかわらずヘミングウェイの政治性が研究対象となつてこなかったのは、ヘミングウェイの共産主義への姿勢が、時期に応じてきわめて矛盾しているためである。時に公然と共産主義を批判し、距離を置き、その政治的態度はしばしば揺れ動いていたために、左翼研究者はヘミングウェイの左翼思想のみを強調し、その他大半の研究者はヘミングウェイの反政治的言説のみを取り上げ、政治に対する言及を無視してきたのである。ヘミングウェイに関するほとんどすべての伝記で、ヘミングウェイの「非政治性」が主張されているが、たとえば五巻本のもっとも網羅的な伝記を執筆したマイケル・レノルズは十代の頃のヘミングウェイを描き出しながら、「ヘミングウェイは非政治的になり、残りの人生においてずっとそうあり続けた」と述べている。

政治と同様、宗教に関しても同じことが言える。大半の研究者はヘミングウェイの宗教的姿勢を、例えば「名目上の」「いんちきの」と述べて片付けてきたが、H・R・ストーンバックやラリー・グライムズの研究は、ヘミングウェイが少なくとも人生のある程度の期間、断続的に強い信仰心を持っていたことを明らかにしている。にもかかわらず、ヘミングウェイの時に応じて矛盾する姿勢のために、作品中に豊富に見られる宗教的イメージがこれまで深く考察されることはほとんどなかったのである（ただし『老人と海』に関しては、そのキリスト教的象徴がしばしば研究対象とされてきた。しかし両者とも作品中で用いられた宗教的シンボルに言及するのみであり、ヘミングウェイがキリスト教徒ではないと結論づける研究が主流である）。

2. 研究の目的

本研究はこれまで研究者たちを悩ませてきた政治と宗教に関するヘミングウェイの矛盾する態度を、複雑に絡み合った同一の問題として扱うことによって、ヘミングウェイの政治姿勢と宗教観が一貫していなかった理由を考え直す試みである。スペイン内戦という宗教と政治双方の大きな転回点を中心に据えることで、ヘミングウェイの信仰心と左翼思想への共感が、たんに日和見的に揺ら

いだけではなく、ヘミングウェイの内面を大きく引き裂いていたと考えることが可能である。そしてスペイン内戦を描いた『誰がために鐘は鳴る』には作品全体に宗教的イメージが満ちあふれており、ヘミングウェイの教会を裏切ることへの罪の意識を反映しているのである。

3. 研究の方法

(1) 国際学会への参加

2010年6月にスイスで開催された国際ヘミングウェイ学会に参加し、発表を行った。この学会では、本研究の中心的成果と現状報告を行い、参加したアメリカ人研究者と積極的な議論を交わした。

また同学会では、本研究でも主要な先行研究として参照することの多かったH・R・ストーンバックによるヘミングウェイと宗教に関するパネルがあり、そこでの研究発表を聴講できた。

(2) イタリアにおける現地調査

イタリアのミラノでヘミングウェイが作品中に言及した宗教画を調査を行った。また作品中で言及されているミラノの地名を現地で確認することにより、『ヘミングウェイ大事典』の原稿執筆に際して正確な情報を得ることができた。

ドーフ・チロルではエズラ・パウンド協会会長ジョン・R・グレイの立ち会いの下でエズラ・パウンドの娘にインタビューを行った。主にパウンドとヘミングウェイの絵画に関する関係を聞き、当人たちを実際に知っていた人物による一時的な情報を得ることができた。

(3) 国内学会での発表

2010年5月の日本英文学会第82回全国大会では、エドガー・アラン・ポー生誕200周年記念事業の一環として開かれたシンポジウムにパネリストとして参加し、ヘミングウェイとポーの関係に関して発表した。

また、同年10月には日本アメリカ文学会第49回全国大会において、マーク・トウェイン没後100周年記念事業の一環として開かれたシンポジウムにパネリストとして参加し、ヘミングウェイとトウェインの関係に関して発表した。

またこれらの学会を含め、発表をしない学会においても適宜国内のヘミングウェイ研究者と交流し、当研究内容について意見交換を行った。

(4) 『ヘミングウェイ大事典』編集

ヘミングウェイ没後50周年を記念して編集された『ヘミングウェイ大事典』の編集に関わり、本研究を進める中で得られた成果を公表するとともに、編集を通じて様々な議論を行うことで研究そのものを促進させることができた。

(5)『アーネスト・ヘミングウェイ——21世紀から読む作家の地平』編集

同じくヘミングウェイ没後50周年を記念して出版された『アーネスト・ヘミングウェイ——21世紀から読む作家の地平』の編集に関わった。この論文集では本研究の主要成果の発表を行うとともに、投稿論文のスクリーニングや編集方針のディスカッションの中で、研究推進に大きく貢献できた。

4. 研究成果

平成22年6月にイタリアに渡航し、ミラノでヘミングウェイの見た宗教画の配置状況を確認した。ヘミングウェイがイタリア滞在中に通っていたのはブレラ美術館であるが、そこでの宗教画の展示状況を知ることができたのは、ヘミングウェイの宗教観を知る上で非常に重要な成果であった。またこれまでの先行研究で当然視されてきたいくつかの点に関して修正を迫る事実が発見できた。これらの点に関しては今後の研究発表、論文等で公表していく予定である。

イタリアのドーフ・チロルでは、エズラ・パウンドの娘にインタビューを行った。パウンドの娘は当地の古城に在住で、ヘミングウェイとの関係を知る上で非常に役に立つ情報を提供してもらった。またエズラ・パウンド協会会長のジョン・R・グレイがたまたま当地に滞在中であり、同様にしてヘミングウェイとパウンドの関係について詳しい話を伺うことができた。この点に関して今後の研究発表や論文で徐々に公表していく予定である。

スイスのローザンヌでは、6月30日に国際ヘミングウェイ学会においてイタリアでの調査結果を発表し、アメリカの研究者にさまざまな有益な示唆をもらった。特にデブラ・モデルモグのコメントは今後の研究に対して非常に重要な方向付けとなった。

また同学会のH・R・ストーンバックの宗教に関するパネルでは、その場の議論を聴講することで、研究の方向性を確認し、大きなヒントを得ることができた。

国内学会では2010年度に2つのシンポジウムのパネリストとして参加することにより、他作家との関連においてヘミングウェイを研究することができた。エドガー・アラン・ポー、およびマーク・トウェインというともにアメリカ文学の中でもっともパブリックイメージの確立した作家たちと、同じく作家であることを超えてアメリカのアイコンとして一般に流布するヘミングウェイを並べることにより、本研究テーマも大きく深めることができた。

『アーネスト・ヘミングウェイ——21世紀から読む作家の地平』に「革命家の祈り—『誰がために鐘は鳴る』の宗教観と政治信条」と

いう論文を掲載した。この論文の中で当初の研究計画にあった『誰がために鐘は鳴る』の宗教観と政治性を詳しく論じた。ヘミングウェイは1920年代にカトリックに改宗しているが、1930年代後半からスペインのカトリック教会がファシズムと手を結ぶことによって、信仰心と政治信条の間で揺らぎが生じ始めたのである。本研究はこれまでヘミングウェイ研究においてはほとんど研究されてこなかった宗教と政治という二つの領域から切り込んだものであり、今後のヘミングウェイ研究に対して大きな貢献をするものと考えている。

また研究計画のもうひとつの柱である『日はまた昇る』の宗教性に関しては、特に1925年のスコープス裁判と関係してヘミングウェイのカトリックに対する姿勢を浮き彫りにしたもので、その研究成果を単著としてまとめた。未出版であるが、2012年中の公表を予定している。『日はまた昇る』はヘミングウェイがカトリックに改宗した直後に書かれた作品であるが、主人公のジェイク・バーンズはカトリック教徒として設定されている。しかしながらヘミングウェイはこの作品において主人公に宗教観を語らせることはほとんどせず、むしろジェイクの周囲の人間の宗教観に対する反応として描き出している。これまでヘミングウェイの宗教性に関してはほとんど研究されてこなかったが、ジェイクの宗教観に注目してみると、作品の新たな側面が浮き彫りになるのである。

日本マーク・トウェイン協会の学会誌である『マーク・トウェイン 研究と批評』に、シンポジウムでの発表に基づいた「欲望の荒野——トウェインとヘミングウェイの樂園」を発表した。

また2012年5月には『ヘミングウェイ大事典』が発売予定である。この大事典は没後50周年を記念して出版される日本のヘミングウェイ研究の集大成として位置づけられるものであるが、本研究の研究成果は非常に数多くの項目で生かされている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

高野泰志「欲望の荒野——トウェインとヘミングウェイの樂園」日本マーク・トウェイン協会『マーク・トウェイン 研究と批評』査読なし、第10号、2010年、70-78ページ

〔学会発表〕(計5件)

高野泰志「ポーとヘミングウェイ：暴力と

身体を描く作家たち」日本英文学会第 82 回全国大会シンポジウム「エドガー・アラン・ポーとアメリカ文学——ポスト生誕 200 年の光芒」2010 年 5 月 30 日、神戸大学

Yasushi Takano “Where the Church Used to Exist: Conflict between Religion and Politics in Hemingway’s Works” The 14th Biennial International Hemingway Society Conference in Lausanne, 2010 年 6 月 30 日 University of Lausanne

高野泰志「トウエインとヘミングウェイ、ハックとニック」日本アメリカ文学会第 49 回全国大会シンポジウム「Is Mark Twain Dead? ——マーク・トウエインの文学的遺産」2010 年 10 月 10 日、立正大学

〔図書〕(計 2 件)

日本ヘミングウェイ協会編 (大森昭生、高野泰志ほか)、臨川書店、『アーネスト・ヘミングウェイ——21 世紀から読む作家の地平』、2011 年、395 ページ

今村楯夫、島村法夫監修、高野泰志ほか著、勉誠出版、『ヘミングウェイ大事典』、2012 年、1000 ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高野 泰志 (TAKANO YASUSHI)

九州大学大学院・人文科学研究院・准教授
研究者番号：50347192